

麒麟ビール横浜工場の緑地を活用した魅力あるまちづくりへの貢献



取組の位置



所在地：神奈川県横浜市鶴見区生麦1-17-1

地域課題・目的

【地域課題】

- 計画地一帯は旧東海道に接した京浜工業地帯の一角にあり、古くより工場と住宅が混在し、緑地が少なかった。また、空地が少なく防災面で課題があった。一方で、地域の歴史的資産「生麦事件」や年間30万人以上が訪れる観光資源「麒麟ビール工場見学施設」があり、これらを活かしたまちづくりや地域の活性化が求められていた。

【目的】

- 1991年より工場敷地内緑地のうち約14,800m²（写真2）を市民に開放している麒麟ビールは、2008年よりはじまった首都高速道路・横浜市道建設による工場施設再編にあたり、横浜市中事例となる工場立地法敷地外緑地制度を活用するとともに（写真1・3）、生麦地区の歴史と観光を活かしたまちづくりをおこなった。

取組内容

- 横浜市生物多様性横浜行動計画の策定を受け、ビオトープ整備のほか、地元小学校への環境教育（写真4）や自然に親しむガイドツアー等を開催し、生物多様性の確保や普及に努めている。
- 横浜市が推進する京浜の森づくり事業や、地域緑のまちづくり事業による緑の創出、工場立地法敷地外緑地制度などの行政施策との連動に加え、生麦事件碑などの地域資源を織り込みながら（写真5）、緑あふれる街並み整備に取り組んでいる。
- 横浜市との災害協定の締結や鶴見区とのイベント協力、栈橋整備による新たな観光ルート構築など、ビール工場見学施設とあわせ、グリーンインフラ整備を通じて地域の活性化に取り組んでいる。



取組効果

- これまでの緑地整備により全長約1.1km、面積約33,400m²に及び市民に開放された広大な工場緑地が誕生し、緑のネットワークの強化が図られたほか、地域資源を活かした街づくり、地域の活性化、防災面の強化、生物多様性がうまれた。

表 麒麟ビール横浜工場緑地で確認された生き物

分類	確認数	主な種類
鳥類	12種類	カワヒラ・ツバメ・カガモ・カゲビ
魚類	3種類	ヨコハマメダカ
両生類	4種類	アズマヒキガエル・コホトガ
水生生物	11種類	ミメゲンゴロウ・ナマメダカ
昆虫類	54種類	ギンヤンマ・ショクリョウバ・ツタメトキ



ヨコハマメダカは「ビオトープ池」での保護繁殖による（神奈川県レッドデータ種絶滅危惧ⅠA類）
緑字：神奈川県レッドデータ種減少種 赤字：神奈川県レッドデータ種要注意種